

こんにちは！ 歴史資料室の鈴木です。

歴史資料室では、8月24日までの予定で、館内展示「平和都市宣言から30年」を行っています。8階では平和に関する図書を展示しており、貸出もできますので、こちらもぜひご覧ください。

ところで、皆さんは「Zoo is the Peace (動物園は平和そのものである)」という言葉に耳にされたことはありますか？ これは、昭和12年(1937)から同37年まで上野恩賜公園動物園(昭和22年から東京都恩賜上野動物園、以下上野動物園)の園長を務めた古賀忠道の言葉です。古賀園長は昭和26年にアムステルダムで開かれた国際動物園長連盟会議に出席した折、各国の動物園を視察し、帰国後に各園長に宛てて送った礼状にこの言葉を記しました。

私はこのエピソードを小宮輝之著『物語上野動物園の歴史 園長が語る動物たちの140年』(2010年 中公新書2063)という本で知りました。著者は、平成16年(2004)から同23年まで上野動物園園長を務めた方で、「動物園」という言葉の由来や、園で暮らした動物たちの様々なエピソードも綴られており、とても興味深く読みました。

上野動物園は、戦争中に猛獣処分など悲しい出来事を経験しています。だからこそ、動物園に再び動物の姿や子どもたちの笑顔が戻ったことに、古賀園長は平和を強く実感したのだと思います。

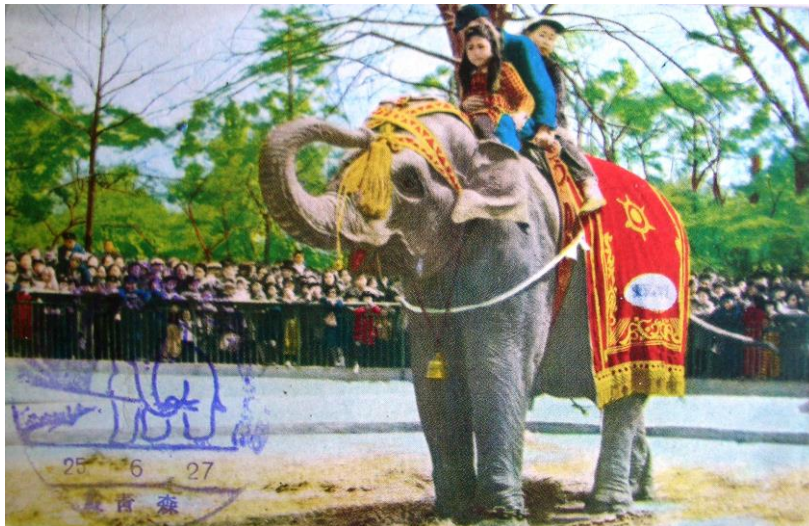
また、この本の第4章「平和の回復」には、「あおり歴史トリビア」No.105(2014年5月2日配信)でご紹介した、昭和25年に青森市にやって来た移動動物園も出てきます。

戦況が厳しくなってきた昭和18年、東京都長官(現在の都知事)より猛獣処分命令が下され、上野動物園ではライオンやトラなどの肉食動物、そして草食動物のゾウまでが犠牲となりました。戦争が終わった時、大型の野生動物はキリンしか残っておらず、外国から動物を輸入する事もすぐには許可されなかったため、まずは都民の食料不足も補えるブタやアヒルなどを飼育していたそうです。

その後、昭和24年にアメリカからライオンが、続いてインドのネール首相から日本の子どもたちへ平和の使者としてゾウが贈られるなど、少しずつ動物が増えていきました。

インディラと名付けられたこのゾウは、翌25年に東日本・北日本の都市を移動動物園と称して巡回しました。同年6月28日には、青森市にもお目見えしています。きっと、初めて見る本物のゾウに、子どもたちはみんな笑顔になったことでしょう。

この本は、市民図書館7階新書コーナーにありますので、興味のある方は手に取ってみてください。(請求記号S480.7コ)



インディラ(個人蔵)

今は新型コロナウイルスの影響で外出もままなりません、早く世の中が落ち着いて、ゆっくり動物たちに会いに行ける、平穏でそして平和な日々が世界中に訪れるといいなと思います。

Zoo is the Peace!!



平和都市宣言碑(平和公園)